

中央アジア

日本の技術に期待大

ジェトロ海外調査部欧州ロシア CIS 課 芝元 英一

中央アジアへの中国企業の進出が盛んだ。日本企業と競合するケースも多いこの市場で、日本は現地企業と合弁を組んで地元ニーズを取り込む。日本の技術とサービスに中央アジア側は期待と信頼を寄せる。その期待に応えるべく日本企業の進出は既に始まっている。

中国の関与拡大

中国の対中央アジア進出が目立つ。別表によれば、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタンにおける2008～12年の5年間の輸出入総額の伸びはともに1～1.3倍程度。これに比べ中国への輸出額は、カザフスタン1.9倍、ウズベキスタン5.7倍、キルギスタン1.4倍。同じく輸入額は1.6倍、1.5倍、1.7倍と、い

れも総額の伸びを上回った。特に輸出の伸びが大きい。キルギスタンは鉱物資源、カザフスタンは鉱物性燃料がそれぞれ輸出の半分を占める。ウズベキスタンの輸出の大幅増は、パイプラインを使った鉱物性燃料によるものと考えられる。

投資分野でも中国が存在感を示す。カザフスタンにおける外国からの投資総流入額（12年、国家統計庁）は270億ドル、08年比27%増だった。うち、中国からのそれは23億7,400万ドルで、08年の7億9,300万ドルから3倍に拡大した。

最も目立つのは資源確保のためのパイプライン整備だ。トルクメニスタンを起点にウズベキスタン、カザフスタンを通り中国西部の国境の町、アラシャンコウまで全長約2,000キロメートルの天然ガスパイプラインが通っている。各国の国有石油企業と中国の折半出資により、09～10年にかけて2本のパイプラインを敷設した^{注1}。ウズベキスタン領内ではさらに2本のパイプラインを建設予定だ（うち1本は15年完工予定）。いずれも中国が融資しているという。これにより3カ国合計で最大650億立方メートルの天然ガスが供給される見込みだ。また、カスピ海沿岸のアティラウからアラシャンコウまで約3,000キロメートルの石油パイプラインは09年に完成し、年間1,000万トンに及ぶ石油が中国へ送られている。さらに13年にはポンプステーションの能力増強についてカザフスタンと中国間で合意された。輸出量を倍増させるのが目標だ。この他、中国はカスピ海沖のカシャガン油田開発にも出資する（出資総額の8.4%）予定と報じられている。

資源だけではない。ウズベキスタンでは中国の協力の下、交通インフラを整備するプロジェクトが動き出した。首都タシケント南東にあるカムチク峠に19キロ

表 カザフスタン・ウズベキスタン・キルギスタンの対中・日・ロ貿易の推移（2008～12年）（単位：100万ドル、%）

| | 総額 | | 中国 | | 日本 | | ロシア | | |
|---------|-----|----------------|-------|----------|------|-------|-----|----------|------|
| | 金額 | シェア | 金額 | シェア | 金額 | シェア | 金額 | シェア | |
| カザフスタン | 輸出額 | 2008年 71,183.5 | 100.0 | 7,676.6 | 10.8 | 803.9 | 1.1 | 6,228.1 | 8.7 |
| | | 2009年 43,195.7 | 100.0 | 5,888.6 | 13.6 | 247.5 | 0.6 | 3,547.0 | 8.2 |
| | | 2010年 60,270.8 | 100.0 | 10,121.6 | 16.8 | 539.3 | 0.9 | 5,714.9 | 9.5 |
| | | 2011年 84,335.9 | 100.0 | 14,777.5 | 17.5 | 577.7 | 0.7 | 6,998.6 | 8.3 |
| | | 2012年 86,448.8 | 100.0 | 14,227.8 | 16.5 | 550.2 | 0.6 | 6,136.9 | 7.1 |
| カザフスタン | 輸入額 | 2008年 37,889.0 | 100.0 | 4,565.1 | 12.0 | 979.3 | 2.6 | 13,765.6 | 36.3 |
| | | 2009年 28,408.7 | 100.0 | 3,569.5 | 12.6 | 635.1 | 2.2 | 8,896.6 | 31.3 |
| | | 2010年 31,126.7 | 100.0 | 3,962.5 | 12.7 | 560.3 | 1.8 | 12,258.9 | 39.4 |
| | | 2011年 36,905.8 | 100.0 | 4,928.8 | 13.4 | 645.0 | 1.7 | 15,332.0 | 41.5 |
| | | 2012年 46,358.4 | 100.0 | 7,444.9 | 16.1 | 912.2 | 2.0 | 16,959.7 | 36.6 |
| ウズベキスタン | 輸出額 | 2008年 11,493.3 | 100.0 | 257.5 | 2.2 | 24.4 | 0.2 | 1,961.8 | 17.1 |
| | | 2009年 11,771.3 | 100.0 | 489.0 | 4.2 | 15.0 | 0.1 | 2,257.2 | 19.2 |
| | | 2010年 13,023.4 | 100.0 | 931.8 | 7.2 | 16.5 | 0.1 | 4,154.8 | 31.9 |
| | | 2011年 15,021.3 | 100.0 | 1,302.2 | 8.7 | 15.7 | 0.1 | 4,405.5 | 29.3 |
| | | 2012年 13,599.6 | 100.0 | 1,463.1 | 10.8 | 11.5 | 0.1 | 5,144.7 | 37.8 |
| ウズベキスタン | 輸入額 | 2008年 9,704.0 | 100.0 | 1,253.5 | 12.9 | 151.9 | 1.6 | 2,274.2 | 23.4 |
| | | 2009年 9,438.3 | 100.0 | 1,562.4 | 16.6 | 124.0 | 1.3 | 2,190.7 | 23.2 |
| | | 2010年 9,175.6 | 100.0 | 1,252.0 | 13.6 | 106.0 | 1.2 | 1,988.0 | 21.7 |
| | | 2011年 11,344.6 | 100.0 | 1,397.2 | 12.3 | 147.5 | 1.3 | 2,383.4 | 21.0 |
| | | 2012年 12,816.5 | 100.0 | 1,894.8 | 14.8 | 205.7 | 1.6 | 2,695.3 | 21.0 |
| キルギスタン | 輸出額 | 2008年 1,855.6 | 100.0 | 44.4 | 2.4 | 3.1 | 0.2 | 310.2 | 16.7 |
| | | 2009年 1,673.0 | 100.0 | 19.5 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 185.8 | 11.1 |
| | | 2010年 1,755.9 | 100.0 | 28.3 | 1.6 | 0.8 | 0.0 | 257.8 | 14.7 |
| | | 2011年 2,242.2 | 100.0 | 42.5 | 1.9 | 0.1 | 0.0 | 284.4 | 12.7 |
| | | 2012年 1,927.6 | 100.0 | 61.4 | 3.2 | 0.5 | 0.0 | 219.1 | 11.4 |
| キルギスタン | 輸入額 | 2008年 4,072.4 | 100.0 | 728.2 | 17.9 | 130.4 | 3.2 | 1,492.2 | 36.6 |
| | | 2009年 3,040.2 | 100.0 | 623.7 | 20.5 | 66.0 | 2.2 | 1,090.4 | 35.9 |
| | | 2010年 3,222.8 | 100.0 | 666.4 | 20.7 | 86.4 | 2.7 | 1,083.9 | 33.6 |
| | | 2011年 4,261.2 | 100.0 | 924.2 | 21.7 | 164.5 | 3.9 | 1,429.6 | 33.5 |
| | | 2012年 5,576.3 | 100.0 | 1,214.9 | 21.8 | 216.1 | 3.9 | 1,816.6 | 32.6 |

資料：カザフスタン国家統計庁、ウズベキスタン国家統計委員会、キルギスタン国家統計委員会資料を基に作成

メートルのトンネルを通す工事を中国企業が請け負ったのだ。冬季には、東西を結ぶ大動脈が標高 2,000 メートルを超えるこの峠の凍結により交通が妨げられるため、政府はかねて峠にトンネルを通し鉄道を整備する計画を立てていた。

西から来る鉄道の終点、アングレン市から峠の東側に位置するパプ市までの全長 123 キロメートルを結ぶ鉄道は、ウズベキスタン鉄道公社が建設。トンネル部分を同公社と中国鉄道トンネルグループが共同で建設する。トンネルの建設費 4 億 5,500 万ドルを含む総工費 17 億 6,900 万ドルはウズベキスタン政府、鉄道公社、国際金融機関からの資金で賄われる。13 年 7 月に鉄道建設が始まり、トンネルは 16 年 7 月に完成予定だ。

シルクロード経済ベルト構想

中国政府も自国の企業進出を後押しする。13 年 9 月、習近平国家主席がトルクメニスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタンを歴訪。カザフスタンでの演説で「シルクロード経済ベルト構想」を提唱した。この構想に沿って取り組むべき事項は大きく分けて四つある（2014 年 2 月 17 日付中国商務部プレスリリースより）。

1. 貿易促進のため、電子商取引などの導入、人民元決済の促進、中国からの機械設備や高度技術の輸出と中央アジアからの農産品の輸入促進など。
2. 相互の投資・経済技術協力のため、風力・太陽光エネルギーなど資源以外の分野での開発協力。その他、トルクメニスタンの製紙工場への技術協力、ウズベキスタンのアングレン石炭火力発電プロジェクト融資、キルギスタンのビシケク水力発電所近代化など。
3. 輸送部門では、中国に至る石油・ガスパイプライン建設への支援、重慶・新疆から欧州までの国際鉄道のスムーズな運行、ユーラシアランドブリッジの起点としての連雲港の役割強化など。
4. 中国西部地域の経済発展を促進させるため国境開発計画の策定、中国と中央アジア各国との経済貿易委員会を通じた新疆との経済協力の基礎確立など。

現地の期待に応えるビジネスモデルとは

資源開発やインフラの整備では日本企業にも実績がある。例えば、インペックス北カスピ海石油によるカ

スピ海沖カシャガン油田開発への出資、アティラウ製油所近代化、カザフスタン南部ハラサン鉱区のウラン開発への電力企業を中心とするコンソーシアム参加、ウランの残渣からのレアアース回収、ウズベキスタン南部の円借款による鉄道建設——など。日本政府も円借款供与や国際協力銀行（JBIC）の輸出金融などで支援している。しかし、中国は価格が安い上に政府の支援や公的金融機関のソフトローン^{注2}の提供を組み合わせるとも目され、日本企業がこれに対抗することは極めて難しい。日本企業が順調に進めていた案件が中国の参加により頓挫した例も珍しくないという。「中国の出るところには出ない」というプラント輸出企業もある。一方、競合を避けつつ機材の調達・設置で中国企業と組む商社もある。企業の立場により対応はさまざまだ。

他方、現地では日本への期待も大きい。「(資金があれば)中国製や韓国製よりも日本製を選ぶ」。ウズベキスタンのガニエフ対外経済関係投資貿易相は、13 年 3 月の「第 2 回日本ウズベキスタン政府間ワーキンググループ会議」でこう表明した。中央アジア諸国では日本製の機械設備や日本のビジネス手法に対する評価が高く、信頼も厚い。ある日本企業によれば、中国にプラント建設を任せ過ぎることを不安視する声が中央アジア諸国の企業幹部から聞こえてくるという。

日本企業が持つ確かな技術ときめ細かなサービスに対する中央アジア諸国の期待に応える新しい動きも始まっている。カザフスタンでは 13 年 1 月にコンビニエンスストアのミニストップが開業した。既に 5 店舗展開している^{注3}。タジキスタンでは医薬品原料製造・販売企業の宏輝が、11 年 9 月から現地政府の協力を得ながら薬用植物の甘草根の採集と加工に取り組む。どちらも現地の企業と合弁を組んで地元ニーズを取り込み、雇用を創出している。

日本に期待と信頼を寄せる中央アジア。中国の進出拡大は、見方を変えれば、日本の独自性が際立つビジネスを広げる好機と捉えることができるのではないかと。[4]

注1：JOGMEC「中央アジア：中国向けのガス出荷拡大を目論む中央アジア諸国」2011年8月16日付

注2：一般的には緩やかな貸し付け条件を付した融資のことを指すが、ここでは経済協力開発機構（OECD）輸出ガイドライン（輸出信用アレンジメント）で規制される融資基準以上の緩やかな条件を指す。

注3：ミニストップ・ウェブサイト